

2021年度 慶應義塾大学 一般選抜
総合政策学部 小論文 問題趣旨

SFCは1990年の創設以来、問題発見と問題解決をキャンパスの看板に掲げて多くの人材を育ててきました。近年、こうしたスタンスに立つ教育機関が増えてきましたが、SFCの大きな特徴は確固とした方法論を持って、思いつきではなく、綿密に問題を発見し、それぞれに合ったかたちでの問題解決を進めてきたと考えています。

こうした観点から、本問では、課題を構造的に捉える力（ツール1・問1、ツール2・問2）、その上であるべき未来を描き出す力（ツール3・問3）を問いました。

ツール1は公共政策学の基本的な考え方である「1つのA」と「3つのI」について説明し、複雑化した課題を分解する方法を提供しています。問1はこれを用いて具体的な課題を分解するものです。提示された材料を適切に理解し、分析に必要な処理を行うとともに、それぞれのアクターがどんな立場にあり、何を考えて動くかを想像する力が試されます。

ツール2は問題を政策に移行する際に重要となる捉え方であるフレーミングと、課題解決に向けたフローを示すアローダイアグラム、それを構成する要素としての独立変数、媒介変数、従属変数を解説しています。ツール1の分析を経て、構造を理解し、本質的で訴求力のある問題提起ができるかが試されます。

ツール3は、対症療法に留まらない根本的な問題解決を目指す方法としてのシステム思考を示しています。ツール1・2を踏まえ、課題を取り巻く構造全体を捉え、単に夢や理想や精神論を振りかざすのではなく、現状の緻密な分析に立ったうえで未来を語るができるかを見ることができるかを問うものとなっています。

以上